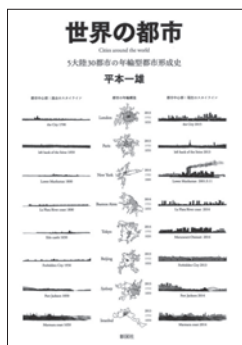


旅の図書館 だより

「旅の図書館」おすすめの書籍



世界の都市
5大陸30都市の年輪型都市形成史
平本一雄 著
彰国社/2019年4月/
B5判216頁/2850円+税

都市や建築の空間、都市の政策や経営、都市の文化・歴史などを研究する人のための基礎的知識の書。ヨーロッパ・南北アメリカ・アフリカ・オセニア・アジアの30都市を対象に、都市形成の多様さを具体的に解説。



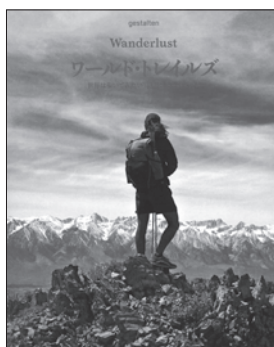
観光の事典
白坂蕃・稲垣勉・小沢健市・古賀学・山下晋司 編
朝倉書店/2019年4月/
A5判464頁/10,000円+税

観光研究の第一線で活躍する研究者らによる観光学の総合事典。観光の基本用語から経済・制度・実践・文化まで197項目を網羅。単なる用語解説にとどまらず、観光の基礎が理解でき実務にも役立つ。



「市」に立つ
定期市の民俗誌
山本志乃 著
創英社/2019年4月/
四六判304頁/1800円+税

丹念なフィールドワークにより、市に集まる人びとの人生、土地のあり方が鮮やかに描き出される。市は決して古いものではなく、現代をしながらに生きるためのヒントが詰まっている。



ワールド・トレイルズ
世界は歩いてみたい「道(トレイル)」にあふれている
ゲシュタルテン 編集/
グラフィック社/2019年4月/
B5変型判256頁/2900円+税

地球上には自然と人間が創りあげてきた多くの道がある。迫力ある写真の数々と印象的な文章によって、世界各地のトレイルの魅力を十分に表現する。道の多様さと奥深さに驚かされる。



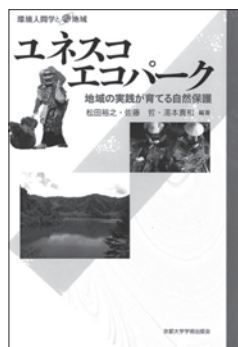
国際観光旅客税と観光政策
盛山正仁 著
創英社・三省堂書店/
2019年3月/A5判400頁/
3300円+税

本年1月から運用が開始された「国際観光旅客税」には、早くも各方面から大きな期待が寄せられている。新税創設の背景、目的、基本方針などの解説に加えて、我が国の観光の現状と課題も丁寧に解説する。



観光亡国論
アレックス・カー、清野由美 著/
中央公論新社/
2019年3月/新書判224頁/
820円+税

日本の観光に鋭い視線を注いできた東洋文化研究家の最新著書。決して観光の否定ではない。日本が真の観光立国となるために正面から向き合わねばならない問題への提起の書である。



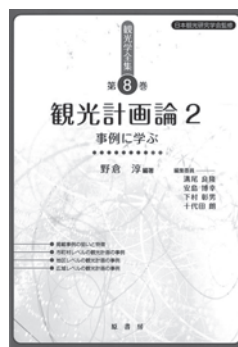
環境人間学と地域 ユネスコエコパーク
地域の実践が育てる自然保護
松田裕之・佐藤哲・湯本真和 編著/
京都大学学術出版会/2019年3月/
A5判366頁/4400円+税

ユネスコエコパークは世界遺産と何が違うのか？単なる自然の保全ではなく、人間の生きた生活の上に成り立つ自然保護を目指すユネスコエコパークの制度的特徴と実践事例を紹介。



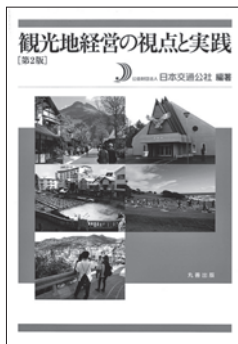
地域おこし協力隊 10年の挑戦
椎川忍・小田切徳美・佐藤啓太郎、地域活性化センター、移住・交流推進機構 編著/
農山漁村文化協会/2019年2月/
四六判356頁/1800円+税

制度導入から10年。様々なキャリアをもちそれぞれの生き方を探す若者と地域との出会いが、関わる人と地域を変えていく。地域おこし協力隊の制度の効果と今後の方向性にも言及。



観光計画論2
事例に学ぶ(観光学全集8)
野倉淳 編著/原書房/
2019年6月/A5判204頁/
2800円+税

各地の観光計画に関わった実務者らが、計画の策定、方策、実施、評価等を事例ごとに解説しています。2018年3月に刊行された観光学全集シリーズ第7巻『観光計画論1』のベースとなった具体事例編でありセットで読みたい。



観光地経営の視点と実践 第2版
公財)日本交通公社 編著/
丸善出版/2019年4月/
B5判268頁/3000円+税

第2版では、観光地経営を実現させるための視点を、「リスクマネジメント」の視点を加えて9つとしたほか、各視点についても、環境変化を踏まえて改訂を行っています。また、実践例についても、4つの地域を新たに取り上げています。

特集関連蔵書・資料



**ロングステイ調査統計
2018**
一般財団法人ロングステイ財団、
ロングステイ財団、2018



**観光とまちづくり
532号**
公益社団法人日本観光振興協会、
日本観光振興協会、2018



**月刊レジャー産業
No.604**
総合ユニコム(株)、
総合ユニコム、2017



**季刊ritokei
No.27**
NPO法人離島経済新聞社
離島経済新聞社、2019

公益財団法人日本交通公社 発行の出版物のご案内

○当財団発行の最近の書籍の紹介です。

○ここで紹介している本は、全ページをホームページで公開しています。

○印刷版は、アマゾン(amazon.co.jp)にて、オン・デマンド印刷で販売しています。

『温泉まちづくり』(発行:2019年3月) - 2018年度 温泉まちづくり研究会 総括レポート -



温泉まちづくり研究会は、観光まちづくりに熱心に取り組む温泉地が集まり、温泉地に共通する課題についてその解決の方向性を探り、全国に情報発信することを目的として2008年6月に発足しました。第1ステージ(2008~10年度)では、「入湯税の有効活用」「環境負荷の少ない温泉地づくり」「歩いて楽しい温泉地づくり」など5つのテーマについて議論を重ね、提言集『温泉まちづくりの課題と解決策』(2011年5月)を刊行しました。第2ステージ(2011~12年度)は、会員温泉地に共通する現実的な課題や半歩先ゆくテーマを取り上げ、解決策や望ましい方向性を模索しながら実践型研究会としてステップアップを目指しました。具体的には、「震災後の消費者の意識変化」「長期滞在への対応」「ひとり旅への対応」「温泉地、温泉旅館の価値」といったテーマについて考えました。続く、第3ステージ(2013~15年度)も、より実践的なテーマを掘り下げ、「温泉地における観光まちづくり財源」「景観整備」「滞在プログラム」「自然災害」「雇用と人材」などについて、各分野の有識者・実践者を交えながら議論を行いました。毎年の活動成果は「総括レポート」として取りまとめ発行しております。2016年度から18年度までの3年間は「第4ステージ」と位置づけ、これまで以上に温泉地の課題解決に向けた議論を行ってまいりました。最終年度である2018年度は、温泉地と宿泊業において喫緊の課題となっている「インバウンド」と「雇用問題」について、最新の情報を有識者・政策ご担当者からご教示いただきながら議論を行いました。本総括レポートは、2018年度の研究会における議論の内容を取りまとめたものです。温泉地の方々具体的なアクションを起こす際のヒントになりましたら幸いです。A4判70ページ/1,500円+税。『温泉まちづくり』は2011年度版からホームページで全ページを公開しています。

『平成30年度 観光地経営講座 講義録』 (発行:2018年11月)



今回のテーマは「多様化する宿泊事業に対応する観光地経営」。宿泊事業は世界的に大きく変化し、我が国の宿泊事業もその流れの中にいます。その具体的変化について、国際規模での宿泊事業投資のコーディネーター、ファンドも活用しながら所有と経営を分離し多店舗展開を行っている宿泊事業者、日本で世界基準のコンドミニウム事業を立ち上げてきた開発運営事業者、そして、自身が持つ住居系不動産(アパート)を利用し新たな宿泊事業に取り組む方々を講師に招き、宿泊事業に生じている「変化」「ダイナミズム」を共有しました。その上で地域として何を指し、宿泊事業をどのように地域に呼び込み、育て、発展させていくのかについて、ディスカッションしました。観光地に対する「投資」はその地域の持続的な成長に欠かせない要素です。インバウンドが動いてきた現在が、そうした投資を呼び込むチャンスです。地域における宿泊施設の活用について考えるヒントになればと思います。A4判1色80ページ/1,000円+税。『観光地経営講座 講義録』は平成25年度版からホームページで公開しています。

『旅行年報2018』(発行:2018年10月)



「日本人の旅行市場」「訪日外国人の旅行市場」「観光産業」「観光地」「観光政策」の5編と、「付記(観光研究)」「資料編(統計資料と年表)」で構成。各種の統計資料や当財団が実施した調査結果をもとに、最近一年の動向を解説しています。A4判1色224ページ/2,000円+税。『旅行年報』は2014年版からホームページで公開しています。